

三宅島

火山とともに生きる島



三宅島はどこにあるの？

位置：都心から南に180km

面積：55.2km²

アクセス

航路：竹芝－三宅島（東海汽船）大型

客船で約6時間30分

空路：調布飛行場－三宅島空港（新中央航空）飛行機で約50分

MIYAKEJIMA

OGASAWARA Islands.



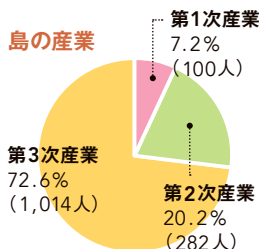
information

島の人々

人口：2,482人

世帯数：1,483世帯

島の産業



公共施設

役場：1

医療機関：1

小学校：1

中学校：1

高校：1

三宅村の特産物

水産生鮮品：キンメダイ、カツオ、マグロ、タカバ、イセエビ

水産加工品：テングサ、トサカノリ、干物、燻製

農林産生鮮品：アシタバ、サトイモ、キキョウラン、ドラセナ、レザーファン、パッションフルーツ

農林産加工品：明日葉商品（麺、お茶、カレー、炊き込みご飯など）、三宅漬け、焼酎

工芸品：貝アクセサリー

三宅村のシンボル

花：ガクアジサイ

木：スダジイ

鳥：アカコッコ

国の天然記念物で絶滅危惧IB類にもなっているアカコッコ。





火山と共にある 三宅島の歴史

三宅島は、伊豆諸島の中で大島、八丈島に次ぎ3番目に大きな島で、その面積は山手線の内側と同じくらいです。

古来より三宅島は、伊豆諸島の中で最も噴火の多い島として有名で、記録として残されている最古の噴火は『壬生家系図』（※1）における1085（応徳2）年のものです。また、島名の由来には諸説あり、ひとつに火山の噴火が多いことを起源とする「御焼島」説があります。

噴火は島民の信仰にも大きく影響を与えています。三宅島には、神名帳（全国の神社一覧）に記載されているだけで70社、現存しながら未記載のものを含めると100社以上の神社があります。特に噴火に関する神社が多く、昔から島民は神に信心することで、自然災害を乗り越えてきたことがわかります。

復興の道を歩む三宅島

2000（平成12）年の噴火により、島民は島外での避難生活を余儀なくされました。全島避難指示は約4年半にわたり、2005（平成17）年により、ようやく解除されました。帰島直後は火山ガス等で枯れた樹木ばかりでしたが、島に緑を戻すために多くのボランティアが植樹活動が続けています。こうした活動と自然の力によって、現在は緑が増えてきている三宅島を見ることができます。そのほか、行事等も復興を後押ししています。富賀神社大祭は、2009（平成21）年に11年ぶりに復活し、多くの人が島を訪れています。

富賀神社大祭





雄大な景観は、まるで天然の火山博物館

円形の島である三宅島の中央には、活火山・雄山（標高775m）があります。雄山の標高はもともと814mでしたが、2000（平成12）年の噴火で山頂が陥没すると、山頂の直径約3.5kmの外側カルデラの中に直径1.6kmのカルデラと深さ約500mの火口が誕生し、現在の標高になりました。

2000（平成12）年の噴火のほか、近年では1983（昭和58）年、1962（昭和37）年、1940（昭和15）年と、約20年周期で噴火しています。こうした度重なる噴火によって、三宅島では火山島ならではの景観や噴火の痕跡を見ることができます。火山体験遊歩道付近では、溶岩に飲み込まれた旧阿古小中学校がそのままの姿で残っており、自然の驚異を肌で感じることができます。こうした島内のジオスポットを自然ガイドに解説してもらいながら巡るツアーも人気です。

1983年の噴火で形成された火砕丘の新鼻新山（うばなしんさん）。



1940年の噴火により約22時間で形成されたひょうたん山。新東京百景に選ばれている。



度重なる噴火で湾を埋め尽くした溶岩台地の赤場岬（あかばきょう）。



2000年の噴火で社殿と鳥居が泥流に飲み込まれた椎取神社。

1983年噴火時の溶岩の上に作られた火山体験遊歩道。



火山島ならではの溶岩帯をバイクで駆け抜けます。



ユニークな観光振興策としてはじまったイベント。

噴火災害復興の起爆剤 オートバイの祭典

三宅島では、2007（平成19）年からバイクレース「WERIDE 三宅島」が開催されています。イベント名「WERIDE」には、島民だけでなく、日本中、世界中のバイクファンともに（WE）、三宅島のバイクレース（RIDE）を応援し創っていくという復興・島おこしに対する想いが込められています。三宅島のシンボルである雄山と太平洋に囲まれた壮大なロケーションの中をオフロードバイクで走行できる、他に類のないバイクレースとして人気を集めており、今では申込開始から応募が殺到するほどのイベントに成長しています。



釣り人憧れのスポット、大野原島（通称：三本岳）。

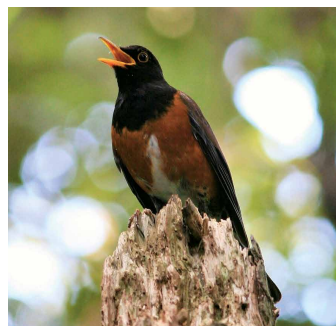


天然のタイドプール（潮だまり）になっている長太郎池。

黒潮の恩恵を受ける 三宅島の海

黒潮の恩恵を受ける三宅島周辺の海には、熱帯魚、大型の回遊魚、ウミガメなどが生息しています。三宅島では、こうした多様な生物に出会えるダイビング、スノーケリングが人気です。富賀浜付近の海では、伊豆諸島最大といわれるテーブルサンゴの群集が見られます。

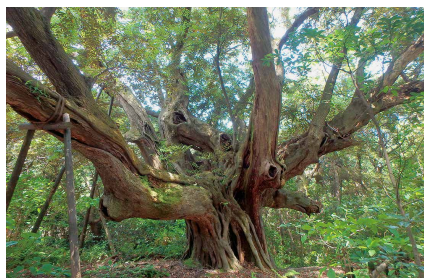
また、豊富な魚種と魚影の濃さが特徴といわれ、大物が狙える三宅島の海は、釣り人の聖地とも呼ばれています。釣りの楽しみ方はさまざまで、磯釣りのほか、知識と経験のある船長に案内してもらえる船釣り、大野原島（通称：三本岳）など絶好の釣りポイントへ渡船で向かう沖磯釣りなどがあります。釣り人の幅広い期待に応えられる三宅島の釣りは、海外からも含めて多くのリピーターを惹きつけています。



国の天然記念物
アカコッコ

アカコッコは、国の天然記念物に指定されている三宅村の村鳥です。主な生息地域は伊豆諸島と鹿児島県のトカラ列島で、日本の固有種です。ツグミの仲間ですが、スズメの倍くらい、赤いお腹と黒い顔が特徴です。三宅島は別名バードアイランドと呼ばれ、アカコッコのほかにも、カラスバトやイイジマムシクイなど、限られた地域でしか見られない貴重な野鳥をはじめ、数多くの野鳥が生息しているといわれています。中でも大路池周辺は生息密度が高く、探鳥ポイントのひとつです。

三宅村の木「スダジイ」



三宅島は度重なる噴火の一方で、樹齢数百年の巨樹が数多く残されている稀有な場所です。2016（平成28）年の「第29回 巨木を語ろう全国フォーラム」において、三宅村は日本一巨樹が多い村として発表されています。大路池の園地では、幹周り7.5m、樹高15mの樹齢600年といわれる巨大なスダジイに出会えます。噴火を司る神が宿る御神木と伝えられ、「やどり木」という呼び名があります。また周辺の密林に迷い込んでも、この大木が目印になることから「迷子椎」とも呼ばれています。



船祝い

鮮やかな大漁旗が掲げられる漁船から漁港を訪れた人に向かってみかんなどが撒かれます。人々がカゴやダンボールを広げ受け取る様子は島の正月の風物詩です。



富賀神社大祭

神輿は富賀神社のある阿古地区から出発し、伊ヶ谷、伊豆、神着、坪田で正式な儀式により受け渡され各地区の神社に一泊しながら6日間で全島を一周します。

て受け継がれています。

また、祭りに欠かせない郷土芸能の島

節、木遣太鼓、獅子舞、踊りなどは、各

地区の芸能保存会や青年団などによっ

て受け継がれています。

また、祭りに欠かせない郷土芸能の島

節、木遣太鼓、獅子舞、踊りなどは、各

地区の芸能保存会や青年団などによっ

て受け継がれています。

また、祭りに欠かせない郷土芸能の島

節、木遣太鼓、獅子舞、踊りなどは、各

地区の芸能保存会や青年団などによっ

て受け継がれています。

また、祭りに欠かせない郷土芸能の島

節、木遣太鼓、獅子舞、踊りなどは、各

地区の芸能保存会や青年団などによっ

て受け継がれています。

また、祭りに欠かせない郷土芸能の島

節、木遣太鼓、獅子舞、踊りなどは、各

地区の芸能保存会や青年団などによっ

て受け継がれています。

また、祭りに欠かせない郷土芸能の島

節、木遣太鼓、獅子舞、踊りなどは、各

地区の芸能保存会や青年団などによっ

て受け継がれています。

三宅島の祭りと郷土芸能

三宅島に昔から続いている代表的な

行事に、船祝い、牛頭天王祭、富賀神社

大祭があります。

船祝いは、船霊様に新年の豊漁と安全

を祈願する正月行事で、1月2日に島内

数か所の漁港で一斉に行われます。7



牛頭天王祭

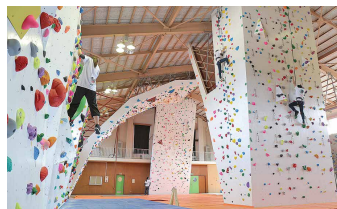
五穀豊穡・大漁・家内安全・無病息災を祈願する祭りです。神着地区御笏神社で行われ、神輿、太鼓、木遣り（榊持ち）が三位一体となり地区内を渡御巡行します。



三宅島 神着木遣太鼓

腰を落として身体を左右に動かしながら打ち抜く打法が特徴の太鼓。

三宅村 レクリエーションセンター



廃校となった坪田中学校の体育館を利用して作られた、公共施設としては日本最大級のボルダリング施設です。当初はボルダー壁のみでしたが、リードができる壁が増設され、現在はボルダリングとリードクライミングの両方が楽しめます。

三宅島郷土資料館

廃校になった阿古小学校を改修し、2008（平成20）年に開館した施設です。三宅島の歴史・民俗や火山、流人文化などに関する資料が保存・展示されています。また、展示物のひとつである2000（平成12）年噴火時に役場で使用されていたホワイトボードには、刻一刻と変わる噴火の状況が克明に残されており、当時の緊迫した様子を知ることができます。





溶岩流が波で侵食されてできた奇石。かつてはメガネ状だった。



雄山の中腹付近にある展望台。伊豆諸島の島々が一望できる。



坂道もラクに走れる。島内を電動アシストレンタサイクルで観光(完全予約制)。

1983年の噴火で溶岩が流入し、干上がった池。



周囲2km、水深30mの伊豆諸島最大級の淡水湖。



島内アクセス

バス、タクシー、レンタカー、レンタバイク、レンタサイクル(電動アシスト付き)あり

島の窓口



三宅島観光協会

〒100-1212
東京都三宅島三宅村阿古
672-3



三宅村観光産業課

〒100-1212
東京都三宅島三宅村阿古497
(三宅村役場臨時庁舎)

島めぐりコース

【1日目】

午前

港に到着 → 民宿の車で宿へ。休憩 → レンタカーで島内をドライブ → 新鼻新山やひょうたん山などジオスポットを巡り火山のパワーを感じる → カフェで名物サバサンドのランチ

午後

三宅島の森を楽しむ半日ツアーに参加 → ふるさとの湯で夕日を見ながらのんびり温泉につかる → 民宿で島料理を堪能

【2日目】

午前

アカコッコ館を見学 → 周辺の大落池、迷子椎などを散策

午後

昼食を購入し、船に乗り込む → 出港